

## 地域包括支援センター課題対応取組み報告書

<b>名称</b>	大正区北部地域包括支援センター
-----------	-----------------

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他( )
活動テーマ	地域に出向いた相談会と地域包括支援センターの周知活動
地域ケア会議から 見えてきた課題	認知症高齢者や支援してくれる親族の居ない、ひとり暮らしの高齢者が増加している。相談につながった時には課題が複雑化していたり、支援体制が整うまでに在宅生活が継続できず措置入所になるケースが増えている。地域との関わりを持たない高齢者は、医療や福祉に関する様々な情報が伝わっていないことも多く、周知活動や早期発見のためのネットワーク構築が必要である。
対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内の高齢者やその家族</li> <li>・民生委員やネットワーク委員等の地域関係者</li> </ul>
地域特性	圏域内の高齢化率は29.6%と区内の平均より低いが、圏域内で元も高齢化率の高い地域は39.5%と高い。地域関係者が積極的に見守り活動を行っている地域もあるが、高齢化率や独居高齢者の増加により、支援の必要な高齢者の早期発見が難しくなっている。
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に出向いた相談会や周知活動を実施することにより、相談延べ件数や相談実件数の増加を目指す。</li> <li>・相談会の開催を通じて、地域関係者や専門職とのネットワーク強化を目指す。</li> <li>・支援が必要になる前の高齢者に周知活動を行い、早期の相談につなげる。</li> </ul>
活動内容 (具体的取組み)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人福祉センターにおいて、隔月で出張相談会を開催(5月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)</li> <li>・ふれあい型食事サービスの配食への同行やチラシの同封を通じて、周知活動を実施</li> <li>・三軒家西地域の見守り活動に同行し、周知活動を実施</li> <li>・UR千島団地のサークル活動において周知活動を実施</li> <li>・大正区社会福祉協議会主催の「きらめきパーティー」において、小学校下毎に周知活動を実施</li> <li>・圏域内の民生委員会等において、地域包括支援センターの周知活動を実施</li> </ul>
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していた地域に出向いた相談会はほとんど実施することができなかった。活動が制限される中で、地域関係者と相談し接触を避けた形での周知活動や感染防止策を講じた上での活動を模索し実施した。緊急事態宣言において相談件数が前年を下回ったが、年間の延べ相談数は令和元年度に比べて増加した。これまでの通りの活動が困難になったが、地域関係者とは地域の情報を交換しながら連携を模索し、新たな形での周知活動や見守り活動への同行につなげることができた。
今後の課題	新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、孤立を深めている高齢者や閉じこもりになっている高齢者が増えていると考えられる。感染対策を講じた上での、新たな形での相談会の開催方法や、周知活動を行っていく必要がある。地域活動の制限により、地域からの相談も入りづらい状況が続くことが想定されるため、今後も周知活動やネットワーク構築の重要性は高い。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月28日(水)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性(拡張性) <input type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目(特性) についてのコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で地域に出向いた相談会を実施することは難しかったと思います。その中で地域関係者とケースの掘り起こしに向けて連携して取り組んでいるという【地域性】があり、地域関係者や関係機関との更なるネットワーク構築が進み【浸透性】のある活動になっていると思います。</li> <li>・今後も継続して周知活動を行い、地域包括支援センターが高齢者の相談窓口であることを、年代を問わず地域に広まり、支援の必要な高齢者の早期発見につながることを期待します。</li> </ul>
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見	